

## 子どもの消費者トラブル

### 「インターネット、携帯電話に関するトラブル」が8割

平成18年度に島根県消費者センターに寄せられた、未成年を当事者とする相談263件のうち、インターネット、携帯電話の使用に関するものが205件（約8割）ありました。

こういったトラブルに関する情報、対応方法等やその他の関連情報がご覧になれるサイト等を、いくつか紹介しますので、ご活用ください。

消費者センターにもお気軽にご相談ください。（連絡先 別掲）

### 1 島根県HP

#### 【消費生活室】

次の情報紙に関連記事を掲載しています。県のHPでご覧になれます。

- すくすく消費者19号（平成18年3月）
  - インターネットのトラブル対策
  - 20号（平成18年10月）
    - 子どもの消費者トラブルの現状
    - インターネット・携帯電話に関するトラブル事例
  - 21号（平成19年3月）
    - e-ネットキャラバン
- 子どもたちも小さな消費者（平成18年度発行）
  - じょうずに使うインターネット・携帯電話



検索：島根県HP→暮らし→消費・食生活→暮らしの情報→施策

[http://www.pref.shimane.lg.jp/life/syoku/shohi/kurasi\\_info/sesaku/sesaku.html](http://www.pref.shimane.lg.jp/life/syoku/shohi/kurasi_info/sesaku/sesaku.html)

#### 【島根県警察本部】

インターネットの有害情報から子どもを守る「フィルタリング」の普及に取り組んでいます。

<http://www.pref.shimane.lg.jp/police/seikatsu/syounen/filter/index.html>



#### フィルタリングの普及促進に向けた活動を展開中

保護者、学生向け用チラシを作成

インターネット上には、子どもの健全な育成に悪影響を及ぼす有害情報が氾濫しており、特に、子どもがいわゆる出会い系サイトなどに携帯電話からアクセスし、事件に巻き込まれるケースが多発しています。このような有害情報から子どもを保護するためには、フィルタリングが極めて有効であることから、中学・高校生及び保護者向けの啓発チラシを作成しました。

保護者用(217KB)	生徒用(218KB)
-------------	------------

### 2 国民生活センター

<http://www.kokusen.go.jp/>

同センター及び全国の消費生活センターに寄せられた消費生活相談情報を蓄積し活用しています。トラブルや対策方法について、最新の情報もたくさん紹介されています。

次のページをご覧ください。

#### Ⓛご注意ください

- ⇒あわてないで!! クリックしただけで、いきなり料金請求する手口
- ⇒インターネットトラブル

Ⓛご注意ください

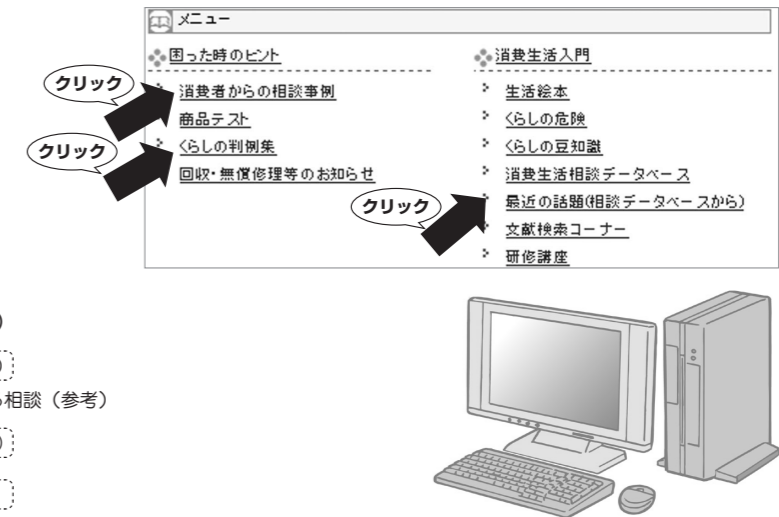
あわてないで!! クリックしただけで、いきなり料金請求する手口

インターネットトラブル

「ご注意ください」の一覧

#### メニュー

- ❖ 困った時のヒント
  - ❖ 消費者からの相談事例
    - ネット・電話（26）
  - ❖ 暮らしの判例集
    - 大学に対する入学辞退者による学納金返還請求（2007年6月）
- ❖ 消費生活入門
  - ❖ 最近の話題（相談データベースから）
    - 商品・サービス関連（含安全性や健康関連）
    - 学校等の授業料や入学金などの返金に関する相談（参考）
    - インターネット・電話関連（近年増加している相談）
    - その他の相談
    - 子どもの消費者トラブル



### 3 警察庁

○インターネット安全・安心相談 <http://www.cybersafety.go.jp/>  
インターネット上のトラブルの解決を支援するサイトです。

代表的な次の項目について

- ・クリックしたら突然、料金請求画面が表示された
- ・ホームページに自分の名前、住所等の個人情報や悪口を掲載された
- ・有料サイトを利用したが、とても高額な料金を請求された
- ・身に覚えのない料金を請求された
- ・オークションで落札して代金を入金したが商品が届かず、相手と連絡が取れなくなった

よくある相談例、予防のためのアドバイス、被害に遭ったときの対処方法等についてご覧になれます。

○キッズパトロール [www.cyberpolice.go.jp/kids](http://www.cyberpolice.go.jp/kids)

インターネットの安全な使い方をゲーム感覚で楽しく学べます。



### 4 インターネットホットライン連絡協議会

<http://www.iajapan.org/hotline/>

インターネットトラブルの相談先を自分で探すサイトです。

インターネットホットライン連絡協議会

What's NEW | 最近(2007年)のお知らせ・活動一瞥へ

- 最近よくある相談 2007年6月6日更新:「クリック詐欺」に注意
- NEWS 2007年7月25日:「インターネット関連ニュース(2007年7月25日)」を更新しました
- NEWS 2007年7月5日:「協議会相談件数(2007年6月分)」を更新しました
- NEWS 2007年6月1日:「財団法人インターネット協会プレスリリース フィルタリング普及啓発アクションプラン 2007」について
- 2007年4月9日:「財団法人インターネット協会プレスリリース 「インターネット上の有害コンテンツの多発化」に付いた新たな格付け基準SafetyOnline3の策定」
- 2007年3月22日:「携帯電話向け問い合わせ相談フォーム」を作成しました

### 5 迷惑メール相談センター

<http://www.dekyo.or.jp/soudan/index.html>

迷惑メールで困っている人からの相談を受け、その対策などのアドバイスなどを行っています。

迷惑メールを転送できます。

迷惑メール相談センター

Index

- 相談の受付
- 違反メールの情報提供
- 迷惑メール法
- 迷惑メール対策
- 撃退! チェーンメール

最新情報: 2007/5/25 ~ 8/31

迷惑メールに関するアンケートのお願い

おススメ Contents

- 各ISPのOP25B 実施状況 一覧
- 撃退! チェーンメール 参考資料
- ケータイの迷惑メール対策

What's New

- 2007/08/03 撃退! チェーンメールが5 転送先 更新
- 2007/08/03 撃退! チェーンメールがデータ公開 更新
- 2007/07/23 迷惑メールが対策ISPによるOP25B実施状況 更新

# 「ケータイ」とどうつきあえばいいのかな

島根県社会科研究会  
(実施校: 島根大学附属小学校)

## 1. はじめに

近年、子どもたちを取り巻く環境は悪化の一途をたどっている。とりわけ今日の高度情報化社会の中で、小中学生が何らかの被害に巻き込まれるケースが決して少なくない。子どもがネット環境に対して、あまりにも無防備なのである。これだけ治安が悪くなると、保護者が自分の子が被害に巻き込まれないように、GPSで監視するシステムに頼るのも無理もない話である。ただ問題なのは、そうして親から与えられ、自分で手にした携帯電話が、一体いかなる情報端末であるかをほとんど理解しないままに「携帯」してしまうことなのである。大人がきちんとした模範を示せばよいのだが、肝心の大人の規範意識や携帯使用のモラルは低下する一方である。ただそれを嘆いているばかりでは何の解決にもならない。

小学校の社会科では、こうした情報を取り巻く環境の中で、子どもたちが情報とどうつきあっていけばよいのか、とりわけ中学生になると途端に「携帯率」の上昇する携帯電話について、最も初歩的・基本的な部分で理解しておく必要があると考える。いつでも誰にでも連絡を取ることのできる便利な道具であると同時に、一歩間違えたと取り返しのつかない情報端末であるという認識をもって「携帯」するのが、これからの社会を生きていく子どもたちの大切なあり方であると考えます。

もうすぐ卒業する3学期に、2時間を特設して実践してみた。

## 2. 学習のねらい

「携帯電話」について、連絡を取るという機能面と同時に、情報端末であるということを理解し、身近な消費行動を例に、人間としてのモラルという点から、これからの自分の消費活動を見直す。

## 3. 指導にあたって

### ①単元指導計画

時	テーマ	主な学習活動	教師の支援
1	自分たちを取り巻く情報環境って?	○さまざまな資料をもとに、情報環境の現状について考える。 ○人間に配慮した消費行動ができていないか振り返ろう。	○誘惑の多い今日の情報環境の現状に切実感を持てるように、子どもたちが知っている内容を具体的に聞き出す。
1	これから所持する機会のあるケータイについて考えよう	○文部科学省の作成したリーフレットをもとにして、使ったことのあるケータイの機能や用途を挙げ、自分たちにとってのケータイのもつ意味について考える。 ○よりよい社会を築いていくため自分はどうかケータイとつきあっていくか考える。	○実際に所持している子どもの話を事前に聞いておき、その子がどういう配慮をもってケータイを使用しているかを提示し、自分のあり方を考える振り返り所とする。

最近の子ども携帯電話の所持率は、中学生で約5割、小学生では約1割程度(ベネッセ、2006年)で、年々増加傾向にある。また、携帯電話を持っている中・高校生の9割以上が1日1回以上メールを送っており、約4割の中・高校生は1日20回以上メールを送っているとの調査結果(警察庁、2006年)もある。携帯電話所持率の増加、携帯電話のメールやインターネットの利用者の低年齢化に伴って、インターネットを介したトラブル・犯罪被害なども増加してきている。

このような子ども携帯電話利用の実態を踏まえ、文部科学省の作成したリーフレットの対象は、小学校高学年としている。子どもたちが読みやすいよう、マンガを使って事例を解説するなどの工夫をし、子どもたちだけでなく親子で一緒に読んで、携帯電話のインターネットを介して起きた事例やその対処方法を知ったり、子どもに携帯電話を適切に使うためのモラルやマナー、利用のルールなどについて、親子で話し合い、学び合うための参考としてほしいとしている。



### ②学習のポイント

自分自身が所持している割合は学級で約1%である。自分の親が所持している割合はほぼ100%に近い。この点に注目し、なぜ親は携帯電話をもつことが必要なのか、そして小学生に携帯電話は必要なのかについて、子どもたちの率直な考えを引き出し、携帯電話のもつ意味について考えさせる。

そして、文部科学省から発行されているリーフレットを使って、詐欺・脅迫、あるいはケータイいじめの現状について知り、より正しいあり方について考える。

### ③授業の流れ

教師のはたらきかけ	子どもの発言や取り組み	教師の支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭で携帯電話がどのように使われているのか知り合う。</li> <li>○文部科学省から発行されたリーフレットを配布し、携帯電話のもつ社会的な意味や利用実態について考えさせる。</li> <li>○携帯電話の広告を提示して多くの人利用する機会のあることを実感させる。</li> <li>○授業を通して考えたことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兄や姉が、いつも友だちとメールし合っている。</li> <li>・父は会社の人と重要な連絡を取り合っている。手放せないようだ。</li> <li>・ワンクリック詐欺なんて知らなかった。</li> <li>・そんなに誘惑がたくさんあるんだな。</li> <li>・どうして直接会話せずにメールでやりとりするのか。</li> <li>・メールだとちゃんと気持ちが伝わらない</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「携帯」を持つことは必要なことかどうか、自分の考えをもとう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生には必要ない。</li> <li>・高校生だって必要ない。遊び道具の一部だと思う。</li> <li>・持つことが必要だと考える人が、目的をもって使えばいい。</li> <li>・携帯がいじめの道具になっているなんてひどい。</li> <li>・誘惑の多い社会に巻き込まれないように自分自身が気をつけたいといけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プライバシーに配慮しながら、今の私たちの社会の現状を浮き彫りにしていく。</li> <li>○マスコミが報道しているさまざまなニュースの中で、携帯電話が事件の仲介になっていることの多さを実感させたい。</li> <li>○友だちの考えを参考にしながら、自分自身はどう考えるか、自分の意見をしっかりともたせるようにする。</li> <li>○感想を発表し合い、互いの考えを共有できるようにする。</li> </ul>

### ④まとめ

自分が所持していなくても、家族の誰かが所持しており、その使用実態も子どもたちはよく知っていた。確かに町中を見かけると、中高生に限らず、多くの大人が待ち時間の多くを携帯電話に向かってる姿をよく目にする。携帯電話に依存した暮らしをしている人が多いことも事実である。直接会わなくても手軽にメールで連絡し合うことが日常化しつつあるのは、何とも心細いことである。

子どもたちは消費者である。その消費行動が日本全体の景気や経済活動を大きく左右する。しかし、その中には必ずモラルがなければならない。学級のほとんどの子が、将来いずれ携帯電話を購入すると答えている。なぜその道具を手にするのか、それは社会的にどういう意味をもつのか、そうしたことを意識するかしないかはとても大きなポイントである。社会科の使命は、社会的事象の知識・理解のみならず、まさにそういう自分自身の社会的立場の自覚を促していくことであると強く感じる。

最後に、授業後の子どもの感想を紹介する。今回授業で取り上げた「ちょっと待って」という姿勢を日常のさまざまな場面で応用し、慎重に判断し行動していくように、自分たちがあたりまえに行っている活動を見直していくことが大切であると改めて感じた。学習した子どもたちが、健全な意識で成長していくことを期待したい。

○私は改めて考えてみました。やはり小学生には携帯はいらないと思います。友だちと直接会話することがとても大切だと思います。多くの中学生や高校生は、携帯のメールでないと友だちとのやりとりができないと思っているのかもしれませんが。携帯は自分が本当に必要だと思う人が持つべき物だと思います。

○ぼくはまだ携帯を持っていないけど、いずれ必ず買うと思います。誰もが持っているから買うという訳じゃないけど、ある程度大人になると、連絡を取ったり情報を集めたりするのに必要になりそうです。今日学習した正しい使い方を守って、人を傷つけることのないように使いたいです。



# 地球環境の危機的状況に対して私たち消費者は

島根県社会科研究会  
(実施校：島根大学附属中学校)

## 1. はじめに

先頃パリで開かれた気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第四次報告書では、地球環境問題の現状が待ったなしのところまで来ていること、今すぐ行動を起こしていかなければ取り返しがつかなくなることが述べられ、改めて地球温暖化問題の深刻さを思い知らされた。中学校社会科では、地球環境問題について、地理的分野の「資源・産業からみた日本の地域的特色」や公民的分野の「経済活動とわたしたちの生活」のところでも取り上げているが、この実践は中学校社会科の最終単元である公民的分野「地球市民をめざして」で行ったものである。現代社会の最も切実な課題の一つとして、義務教育の最終段階に、京都議定書などの世界的な取り組みなどと共に、今一度自分たちの消費生活を見つめ直していくことは、大きな意義があると考えられる。

## 2. 学習のねらい

地球環境の危機的現状について切実感を持ち、身近な消費活動を例に環境に配慮した消費活動や企業の活動のあり方を考え、これからの自分の消費活動を見直す。

## 3. 指導にあたって

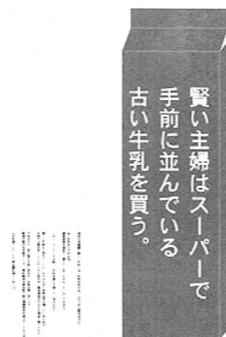
### ①単元指導計画

時	テーマ	主な学習活動	教師の支援
1	地球環境の現状は今？	○さまざまな資料をもとに、地球環境の現状について考える。	○地球環境の現状に切実感を持つように、具体的な資料を示す。
1 (本時)	自分たちの消費生活を見直そう。	○環境に配慮した消費生活ができているか振り返ろう。 ○スーパーで古い牛乳を買うか、新しい牛乳を買うか考えよう。	○自分たちが行っている消費活動を具体的に直視して見直し、新聞広告「エコ買い」を提示する。
1	地球環境問題に対する世界規模の取り組みについて考えよう。	○京都議定書の取り決めや、それに対する日本の取り組み、各国の考えの違いについて考える。 ○よりよい地球社会を築いていくためにどうすればいいか考える。	○温暖化をストップするための課題について具体的にイメージできるように、イラストの中にセリフを入れる作業を行う。

消費生活を「環境への配慮」という視点から見直していくためには、地球環境問題の現状をしっかりと把握し、このままでは大変なことになるんだという意識をしっかりと持たせることが大切である。第一次では、生物種の絶滅が急激に進んでいることや、「一秒の世界」で地球環境の変化を具体的にイメージできるようにした。その上で、第二次では身近な消費生活から地球環境について考え、最終的に地球全体の視野からこれからの地球市民としての自分を見つめていけるように単元を構成した。

### ②本時の学習のポイント

私たちは家の冷蔵庫に古い牛乳と新しい牛乳があれば古い牛乳から飲むのが普通である。しかしスーパーで買い物をする際に、古い牛乳と新しい牛乳があれば新しい牛乳を買うことが多い。この消費活動について、事前に生徒や保護者に対してアンケート調査を行ったが、ほとんどは新しい牛乳を買うという結果であった。また、日本新聞協会が行った2006年新聞広告クリエイティブコンテストで最優秀賞を受賞した作品（右図）、がこの消費活動をテーマにしたものであり、授業ではこの新聞広告に対する賛成度を考える活動を行った。アンケートや新聞広告、またこの広告に対する反論などを通して、自分たちがあたりまえに行っている消費活動を見直し、環境に配慮した消費生活のあり方について考えていけるよう計画した。



### ③授業の流れ

教師の働きかけ	生徒の活動	教師の支援
○危機的な状況に対しての科学者たちの緊急アピールをみてみよう。	○地球環境の危機的な状況について前時で学習したことを想起しながら考える。	○取り組みが身近に感じられるよう、島根大学もISO14001の認証を取得していることを紹介する。
○この状況に対して企業はどんな取り組みをしているだろう？	○地球環境問題に対する企業の取り組みについて考える。 ・環境に配慮して利潤が少なくなる企業に勤めたいか考える。 ・島根大学の環境に対する取り組みについて考える。	○問題への関心を喚起するため、保護者アンケートの結果を示す。 ○自分の消費活動を別の視点から見るができるように、「エコ買い」の資料を提示する。
○地球環境の悪化に対して、私たちはどのようなことを考えていけばいいだろう？	○家庭でできる温暖化対策について、自分の家庭で行っていることをチェックし、友達と意見交換をする。	
○古い牛乳と新しい牛乳について考えてみよう。	○スーパーで古い牛乳と新しい牛乳のどちらを買うか考える。	
○「エコ買い」の広告についての賛成度をあらわして、理由を発表しよう。	○新聞広告に対する賛成度とその理由を考える。 ・新聞広告に対する賛成度とその理由を考え、友達と意見交換する。 ・広告に対する反論や友達の意見を聞いて、自分の考えを見直す。	
○「エコ買い」の広告に対する反論の投書や友達の意見を聞いてさらに考えよう。		
○授業を通して考えたことをまとめよう。	○地球温暖化に対して、エネルギー消費を減らすことについて、自分の考えをまとめ発表する。	

### ④まとめ

「エコ買い」の新聞広告には「…新しい牛乳から売れていくと、そのぶん古い牛乳は売れ残ってしまいます。日本では毎日約2千万人分の食料が賞味期限切れなどの理由で棄てられています。できるだけ、売り場の手前にある古い牛乳を買いましょ。…」という文章が載せられており、広告に対して賛成という生徒がほとんどであった。ただ、この広告に対する投書「消費者は製造日や品質保持期限をみて新しい物を買うのが常識で、古い商品を買った消費者がそれを期限内に消費できなかったら廃棄場所が置き換わるだけになる。」という反論によって、生徒の考えは環境問題が消費者だけの問題ではなく、売る側の企業も含めた問題であることを考えることができたと思われる。次は生徒の授業後の感想の一部である。



○二酸化炭素が増えているのはいろいろ理由があると思うけど、企業の「競争に勝ちたい」という思いも原因になっていると思った。また自分たちにできることはたくさんあり、もっと行動に移していかなければならないと改めて感じた。  
○自分の消費生活に対して疑問を持つ。しかし行動に移せない自分があります。自身を動かすために少し「楽」や「快適」から離れるかもしれないが、政府と国民が我慢して、政治（法など）の面から変えていくべきだと思う。そうすれば動けない人も動けると思う。

今回授業で取り上げた「エコ買い」の広告のように、自分たちがあたりまえに行っている消費活動を別の視点から見直していくことが大切であると改めて感じた。さらに実践を積み重ねたい。

# 省エネルギーのための食生活を考えよう

## —地産地消を取り入れた食品の選択と日常食の調理—

島根県中学校技術・家庭科研究会  
(実施校：島根大学附属中学校)

### 1. はじめに

生活様式の変化やエネルギー消費量の増加により、私たちの生活が環境に与える影響が大きくなってきている。季節や地域に関わりなくいつでも多くの食品が手に入るようになり、食生活が豊かになった一方で、生産や流通に関わるエネルギーの大量消費等により、さまざまな環境問題が起こってきている。私たちの生活も、これまでの「大量生産・大量消費型の生活」から「省エネルギー・循環型の生活」への転換が迫られている。

### 2. 学習のねらい

地産地消を省エネルギーの視点からとらえて、食品の輸送距離に関わるフードマイレージ<sup>\*</sup>や二酸化炭素の排出量を比較しながら、より環境にやさしい食品の選択を考える。また、調理実習等の実践的・体験的な活動を通して、省エネルギーのための食生活について関心を持ち、日常生活に生かそうとする態度を育てる。

### 3. 学習の流れ

学習内容 (全8時間)	学習活動
第1次 食品の適切な選択 (2時間)	・環境に配慮した食生活について考える。 ・食品の品質を見分けて、用途に応じた適切な選択をする。
第2次 環境にやさしく安全で衛生的な調理 (4時間)	・環境に配慮した資源・エネルギーの使い方や、安全と衛生に留意した食品・調理器具等の適切な取り扱いを知る。 ・地元産の食品を用いた日常食の調理を行う。
第3次 省エネルギーのための食生活 (2時間)	・フードマイレージ、二酸化炭素の排出量を計算し、省エネルギーのための食生活について考える。

### 4. 学習の様子

#### (1) 第1次 食品の適切な選択

グラフや資料を活用して、エネルギー消費の現状と問題を考える。具体例を挙げながら、日常生活とエネルギーの関わりについて知り、私たちの生活が環境に与える影響を考えた。



#### (2) 第2次 環境にやさしく安全で衛生的な調理

地元産の食品を用いて、調理実習(ホワイトシチュー)を行った。調理にあたっては、ガスや水の節約(火加減、調理器具の片付け方)、洗剤の使い方(石けん、アクリルたわしの活用)、ゴミの減量や分別(E M菌による生ゴミのリサイクルなど)を行った。



#### (3) 第3次 省エネルギーのための食生活

地元産の食品(じゃがいも、たまねぎ、にんじん、牛乳、鶏肉)によるホワイトシチュー1食分と、遠方産の食品によるクリームシチュー1食分についてフードマイレージや二酸化炭素排出量を算出して比較し、地産地消の意義を客観的に理解した。



#### 〔フードマイレージの算出方法〕

食品の重量 (t) × 距離 (km)

〔例〕じゃがいも 50 g を北海道から松江まで運ぶ場合

$$0.00005 (t) \times 1250 (km) = 0.0625 (t \cdot km)$$

#### 〔二酸化炭素排出量の算出方法〕

食品の重量 (t) × 距離 (km) × 輸送機関ごとのCO2 排出量

〔例〕にんじん 50 g を鹿児島から松江までトラックで運ぶ場合

$$0.00005 (t) \times 500 (km) \times 178 (\text{トラックのCO2 排出量} / t \cdot km) = 4.45 (g - CO2 / t \cdot km)$$

### 5. 学習を終えて (生徒の感想より)

- ・できるだけ地元で採れた野菜を食べるようにする。
- ・スーパーマーケットの地産地消コーナーを利用する。
- ・フードマイレージを計算しながら買い物をする。
- ・必要な分量だけ使って、残さないようにする。必要ないものは、買わない。
- ・ゴミはできるだけ出さない。出たゴミは分別して捨てる。

### 6. 今後の課題

食品のフードマイレージと二酸化炭素の排出量を算出することにより、環境に与える影響を数量的に比較してとらえることができ、地産地消の良さや食品の生産地・輸送距離などを考えて食品を選ぶ視点が身についた。一方で、地元産の食品は価格が高く、生産量が季節や気候によって変動するため、利用しにくい場合もあった。各自の食生活に合わせて、どのように取り入れていくかが今後の課題である。

## Education

次号予告 島根県高等学校家庭科研究会の実践研究事例を掲載します。

### お知らせ 島根県消費者センター

#### ○消費者問題出前講座

学校、職場、地域、グループなどへ講師を派遣します。  
お気軽にお問合せください。  
消費者センター TEL (0852) 22-5103

#### ○ご相談は

・島根県消費者センター  
・同 石見地区相談室

TEL (0852) 32-5916  
祝休日、年末年始、土曜日は除きます。  
日曜日も電話相談のみお受けしています。  
TEL (0856) 23-3657  
祝休日、年末年始、土曜日、日曜日は除きます。

<sup>\*</sup>「フード・マイルーj」ってなに？  
「フード・マイルーj (フード・マイルズ)」の考え方は、食料の生産地から食卓までの距離に着目し、なるべく近くでとれた食料を食べた方が、輸送にともなう環境汚染が少なくなるという考え方です。この考え方は、イギリスの消費者運動家のティム・ラング氏が1994年から提唱したもので、欧米では、消費者団体や環境団体を中心に、この考え方に基づく市民運動が広がっています。  
日本には「地産地消」という考え方がありますが、フードマイルーjは、このような考え方を数量的に裏付けるものといえます。